

汗が原因となって変色やシミなどになることがあります。最近では水洗いに対応した衣類やドライマーク衣類が洗えることされる家庭用洗剤などが普及している中で、プロのクリーニングとして、可能な限り汗を除去することが望まれる事例を紹介いたします。

監修／クリーニング総合研究所



### 衣類の状態

ズボン後側の臀部やズボン裏側のウエストベルト、裾部分など広範囲にわたり緑色に変化している。初めてのクリーニングで戻ってきたら色が変わっていたため、クリーニングで使用した薬品が原因ではないかとの申し出があったもの。

### 原因

汗の作用により変色が生じたもの。変色部分には、汗の成分

である塩素やアンモニウムイオン、たんぱく質が残留しているのが確認できる。これらはドライクリーニングでは除去できず、水分だけが蒸発することにより塩分やたんぱく質が残留する。残留物によるシミは水性処理で除去することも可能だが、変色を伴っていた場合、回復は不可能。汗による変色は、汗が直接作用するのではなく、汗成分を栄養源とする細菌などが染料を分解するために生じるとの説がある。



婦人ズボン。後側全体的にまだらに緑色に変色

### 汗

汗には体温調整のための温熱性発汗と、精神緊張時に手のひら・足裏などに生じる精神性発汗の2種類がある。

汗中の成分は発汗の部位や個人差などにより異なるが、水分が98%以上で塩化ナトリウム、尿素のほか尿酸、乳酸、アミノ酸などの有機酸やアンモニア、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどを含んでいる。

汗を放置することで変色したり、除去できないシミになる可能性を説明するのもクレーム防止の上で有効と考えられる。水洗い不可の表示製品をウエットクリーニングする場合は、収縮や色の变化、風合いの变化などが生じる可能性を事前に説明し、了承を得ておくことが必要。アパレル側の対応として、汗汚れの多い夏物は水処理が可能な製品を企画することが望ましい。

### 事故の防止対策

汗汚れはこまめに除去すること。水洗いができない衣類に対しては、スチームスポットナーによる処理などが有効となる。

受付の段階で利用者に着用の頻度や状況を確認し、汚れの状態を推測した上で、汗汚れを除去するようにする。また、汗汚

### 汗の影響により生じるその他の事故

汗による事故としては、変色やシミの他に、紫外線との複合作用による変色、着用摩擦などを受けやすい部分に生じる毛羽立ちやフェルト化、絹製品に生じやすい黄変と脆化などがある。



ウエストベルトの内側などが緑色に変色している

- 品名…婦人ズボン
- 素材…キュプラ65%、ポリエステル35%
- 取り扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥、ハンドアイロン仕上げ

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。

全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp>

「お知らせ」→「衣料管理情報」